

さいたま市議会議員

阪本 かつみ 市議会レポート

【2012. 6月号】

編集・発行：民主党さいたま市議団 阪本かつみ

6月定例会が開会しました！

さいたま市議会6月定例会が、6月6日から6月29日の日程で開会されました。今議会に市長より提出された議案は、予算議案2件・条例議案6件・一般議案5件・道路議案2件・人事議案1件の合計16件であります。

提出された議案には、合併以来の懸案事項でありました本庁舎の整備に関して（合併協定書には、市役所の位置については新都心周辺が望ましいとされている）必要な事項を調査審議する機関を新たに設置するための条例や、コンビニエンスストアにおける住民票の写し等の証明書等を交付するサービスを開始するための条例を制定するものなどがあります。

また、補正予算の中には、さいたま新都心 8-1A 街区にさいたま赤十字病院を整備するために、都市再生機構所有土地の一部（4,600 m²）を県・市で1/2ずつ取得するための予算が組まれています。いずれの議案も8日から開かれる常任委員会の中で審査されることとなります。



さいたま市議会議員

阪本かつみ

まちづくり委員会 委員長
地下鉄7号線延伸事業化特別委員会 副委員長
予算委員会 理事

補正予算の概要

1. 経済・雇用対策
雇用対策推進事業（105,837 千円）
 - ① 緊急・新卒未就職者等応援事業
 - ② 福祉・介護人材育成事業
2. 高齢者支援
老人福祉施設等施設建設補助事業（145,761 千円）
3. その他
 - ・ 埼玉県と共同して、さいたま赤十字病院が移転するさいたま新都心第 8-1A 街区の土地を取得する。（1,922,800 千円）
 - ・ 国の運動部活動地域連携再構築事業の提案採択を受け、中学校部活動における女子サッカーの充実を図る。（4,214 千円）

阪本かつみ 事務所

〒338-0836 さいたま市桜区町谷 3-24-15 TEL 048-710-4022 FAX 048-710-4023

E-mail: sakamoto-k@kfx.biglobe.ne.jp

「阪本かつみオフィシャル Web サイト」 <http://sakamoto-katsumi.net>

岩手県野田村の災害廃棄物の現状

さいたま市は国からの要請を受け、岩手県野田村周辺の災害廃棄物（柱材・角材などチップ状に破砕されたもの）の受入を検討しています。

そこで、岩手県における災害廃棄物の現状や処理状況について調査するため、岩手県庁や野田村への現地視察を行った。

○災害廃棄物置場の現状は？

岩手県の災害廃棄物の推計量は全体で525万トンで、県内で処理する10年分以上の量にあたる。

柱材・角材	24万トン
可燃物	63万トン
不燃物	105万トン
津波堆積物	130万トン
コンクリートがら	147万トン
金属くず	25万トン

岩手県は北海道に次ぐ面積を有しているが、沿岸はリアス式海岸で平地が少ないことから、産業の中心が水産業であるにもかかわらず漁港などの沿岸部に災害廃棄物の仮置場を設置しなければならない状況である。



ここはキャンプ場の跡地だと思われる



ここは幼稚園の跡地である

○災害廃棄物の処理状況は？

現在、災害廃棄物の処理については、市町村の清掃センターや太平洋セメント大船渡工場の他、宮古・釜石地区に仮設焼却炉を整備して、県内施設をフル稼働させて処理を行なっている。しかし、施設を最大限活用しても、県内で3年以内に処理可能な量は125万トンであり、120万トンについては広域処理をお願いしたいとのことでした。

平成24年3月末日現在での処理量は、およそ49万トンで全体の9%にすぎないのが現状です。

○災害廃棄物の放射線量は？

岩手県野田村は福島原発から約310km離れています。

（さいたま市は約210km）

野田村の災害破棄物仮置き場での空間放射線量率は、毎時0.04~0.06マイクロシーベルトで、さいたま市の空間放射線量率の平均値より低くなっています。



現地で空間放射線量を測ってまいりました